

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2691600031		
法人名	社会福祉法人 倣裏会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 あゆみの家		
所在地	京都府亀岡市篠町篠下中筋44-5		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2691600031-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2691600031-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年11月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人内に保育所があり子どもたちとの交流がある。日々の関わりの中で、入居者の言葉を記録に残し、入居者の思いを汲み取りケアに活かしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は地域との良好な関係が構築され、地藏盆等の地域行事への参加や併設の保育所の運動会や遊戯会を観に出掛けたり、市が主催する認知症カフェに行き楽しむ等、利用者が地域の方々と交流することでサービスの向上に繋がっています。運営推進会議に市の職員の参加があったり、市主催の認知症の啓発活動や毎月行われる医療介護福祉連携会議への参加、日常的な運営上の不明点の確認や市からの認知症等に関する質問を受けて返答する等、行政との協力関係が築かれています。職員は多くの研修の機会等を通じてスキルの向上に努め、様々な意見を出し合いながら協力して利用者一人ひとりに向き合いその人らしくやりたいことができ穏やかに暮らせるように日々の支援に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのつながりを大切にします」の方針があり、日々近隣とのあいさつは実行している。	数年前に事業所独自の理念を職員間で話し合い作成し、食堂に掲示すると共に毎日理念を唱和をすることで意識付けをしています。職員の入職時の研修の際に理念に込められた思いを説明し、理念を道標として日々の支援の中で迷った時に理念に立ち戻って考えることで理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の地域の一員として自治会へ入会。回覧板を近隣に届ける、地域の溝掃除に参加、地域の行事にも参加している	自治会に加入し回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得て、側溝の清掃に職員が参加したり、市が主催する認知症カフェや地蔵盆等の行事に利用者を出掛けています。隣接の法人内保育園の運動会や遊戯会を観に行ったり、園児の来訪もあり相互交流を楽しんでいます。また、近隣の方の事業所の見学を受入れる等、地域との良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が実施している認知症カフェに職員を派遣し、認知症の方、認知症の方の家族の相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、事業内容の報告や事故の報告を行い、改善策について話し合いの場面に活かしている。また、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会としても位置付け委員との意見交換等を行っている	会議は家族代表や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等の参加の下2か月に1回併設の事業所と合同で開催し、毎回スライドショーを写して事業所の取り組みや利用者の状況の伝達、事故報告等を行い意見交換をしています。家族から服薬について意見をもらい検討したり、地域の行事の情報を得て利用者に参加する等、会議をサービスや運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回、市の担当者が参加し、事業所の取り組み等を知らせているようにしている	運営推進会議に市職員の参加があり事業所への理解を得ています。日常的に電話で相談をしたり市職員からの質問を受ける他、制度上の不明点を市の窓口を訪ねて確認したり、市主催の認知症の啓発活動や毎月行われる医療介護福祉連携会議へ参加することで行政と協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、施設内研修を実施している。ケアの場面を振り返り、自身では身体拘束と気付かず間違ったケアをしていないか確認をする機会をつくっている	法人や併設施設と合同で実施する身体拘束についての研修を受け、職員は知識を身に付けています。家族の了解を得てセンサーマットを使用している利用者もいますが、必要性については定期的に職員間で検討しています。玄関の鍵は掛けず外出希望の利用者には出来るだけ職員が付き添って外出し気分転換を図り、言葉かけによる制止が見られた時にはその都度注意しています。	

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において虐待についての学習会を実施している。入浴前など、利用者の身体に打撲や内出血が確認された時は、すぐに報告するように徹底している。知らず知らずのうちに不適切なケアをしてしまっていないかチェックするようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を実施して学習している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定までも、訪問をし、家族の不安が軽減できるように話し合う機会を持った。介護保険改定の際、文章を作成し、直接説明を行い同意を得るよう努めた		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回満足度調査の実施をしている。家族会も実施し、職員と家族で報告会を行なって意見や要望を聞いている	年1回の満足度調査や家族会、面会時等に家族から意見や要望を聞くように努めています。利用者へも年1回満足度調査を実施すると共に、日々の関わりの中で希望や意見を聞いています。家族から頭の体操をして欲しいと要望があり職員間で検討して実施したり、利用者の希望する食事を提供する等、意見や要望をサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1度、管理者が職員との個人面談を実施し職員の意見を傾聴し、その意見をミーティングで提案するなどして反映している	毎月併設の事業所と合同で開催する会議や日々の業務の中で随時職員に声をかけて意見や提案を聞いています。会議に参加しない職員には事前に書面で意見をもらっています。ヒヤリハットの事例を話し合い共有して環境面での改善に繋げたり、物品購入の提案を受け検討して購入する等、意見を支援や運営に反映しています。年1回の個人面談も行い個別に意見や思いを聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談において、個々の職員の将来目標を把握し、個々の職員が目標達成に向けて仕事ができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、また3ヶ月に1回の面談において、個々のケアにおけるアドバイスを実施している。職員の経験や力量を考慮した上で適当であると思われる研修への参加を進めている		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームにおける部会への参加、職員の交換実習をしている。また外部研修に参加した際に情報や意見を交換することができる		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のケアの中で聞いた入居者の言葉を記録に残して入居者の思いを汲み取り、ケアに活かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の担当職員を決めて家族会や面会など、ご家族とお会いする際には、職員が近況報告や相談など話す機会を確保し関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用の実績がない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし本人のできることは積極的にしていただいている。人生の先輩として教えていただくことも多々ある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、受診介助や外出、行事への参加など積極的に関わってくださっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が面会に来てくださったり、ご家族、親族の方と手紙のやり取り等をされている	友人や幼馴染等の訪問時には居室へ案内してお茶や椅子の用意をする等ゆっくり過ごしてもらえよう配慮をしています。家族と共に孫の住む家や墓参り等に出掛ける際は車椅子を貸したり身支度等の事前の準備を支援しています。年賀状や手紙が届き、返事の作成や投函の支援を行う等馴染みの人や場所との関係継続に努めています。	

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者相互に理解しあい、関係づくりができています。職員が間に入り関係づくりを支援したり、不快な思いをされないよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族から近況の様子など連絡があることがある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者の言動から思いをくみ取り、ケアに活かさないかという視点を持つことができています。ケースカンファレンスにおいて個々の職員が持っている情報を持ち寄り、共有し、改善に活かそうと努めている	入居時に自宅を訪問し面談で利用者や家族から思いや意向、生活歴、身体状況等を聞き家族にもアセスメントシートに記入してもらい取りまとめ思いや意向の把握に繋げています。入居後は日々の支援の中で聞いた利用者の言葉を記録し、家族へも相談しながら3か月毎に全利用者のケアカンファレンスを実施し職員間で本人本位に検討し、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、ご入居者の思いやご入居者の発言などの情報を記録し、共有できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者それぞれのリズムで生活できるように配慮している。残存能力の活用をさせていただきよう支援しているが、ご入居者のその日、その時の心身の状況を考慮し、臨機応変に対応できるよう心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンス前に個々の職員の意見や考え、視点を確認し、それを持ち寄り、計画作成時に反映させている。ご家族からの要望や主治医の意見等も反映できるよう努めている	アセスメントを基に作成した介護計画は毎月モニタリングと評価を行い3か月毎を基本として見直し、利用者の状態に変化があれば随時見直しています。見直しの際には再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開催し事前に聞いた家族や医師等の意見を反映し介護計画を作成しています。日々の記録は計画の実施状況が分かるように記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日、時系列で記録している。特記事項がモニタリング時に見直ししやすいように記録を工夫している。ご入居者の発言等も記録し、情報が共有できるよう努めている		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かしての生活はできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医は今までと変わらずかかっている。主治医には受診の際に報告や相談をして連携を図っている。必要に応じて受診時に同行し、ご本人のご様子等を医師に報告して相談している	入居前からのかかりつけ医を継続し往診を受けたり受診しています。かかりつけ医や専門医への受診は家族の対応を基本とし医師へ必要な情報の伝達や確認はファックスや電話で行い、必要に応じて職員が同行することもあります。また利用者の状況に応じて訪問歯科の治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて法人内の他事業所の看護師に協力を依頼し、適切な処置や受診ができるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時、病院へ情報提供をしている。病院の地域連携室との調整を行い、治療が終われば速やかに退院してできるだけはやく元の生活に戻れるようにし、入院による影響を軽減できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてご家族と話し合いの機会を持ち意向を聞いている。介護と医療が連携してご本人の状態を把握し、適切なケアを提供するとともに、ご家族の思いや希望も叶えられるよう努めている	入居時に利用者が重度化した際に事業所として看取り支援をしていないことや対応可能なことを説明しています。利用者の状態が重度化した際には今後の支援について家族と話し合い、家族の協力も得て事業所ですら対応可能な限りの支援をしています。また、事業所での支援が困難な場合は、他の施設や病院等を紹介したり探すなどの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応の訓練を実施している。対応マニュアルを定期的を確認し、把握するよう促している		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では火災、地震、夜間等の場面想定して訓練を実施しているが、地域との訓練は実施できておらず協力体制が築けているとは言い難い	年2回それぞれ地震や火災を想定して独自の防災訓練を実施し、利用者も参加して通報や避難誘導、消火器を使った訓練や自家発電の機械の使用方法を確認しています。運営推進会議では訓練についての案内や報告を行い、また地域で災害が発生した際の避難場所として事業所を市に提供しており、協力関係を築けるよう働きかけています。また、水や食料、防寒シート等の備蓄をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の話しをする際はイニシャルを使うようにしている。言葉使いは職員間で注意できる関係である。プライバシーに配慮し、職員間では隠語を用いて情報共有するようにしている	毎年接遇マナーの研修を実施し、知識を身に付けられるようにしています。敬語での対応を基本に慣れ慣れしくならないように注意しながら、利用者の状況や関係性にも配慮した言葉かけをしています。入浴や排泄介助時は隠語での言葉かけをしたり、希望に応じて同性介助を行う等羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の自己決定を促し、思いや希望を引き出せるよう努め、それを尊重するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は外に行きたいという要望があり外出したりしている。居室で過ごすことを好まれる方は居室で過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪を整え、洋服に食べこぼしなど汚れがあれば随時交換している。入浴後に頭髪や衣服の乱れがないかを意識している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	回数は少ないが料理を作る日を作ってご入居者の能力を活かしながら協力しあい食事を作る場面がある。食器やテーブルを拭いていただく等、ご入居者と協働できるようにしている	食事は昼と夕食は併設の施設の厨房で作られたものが届き、朝食は事業所で職員が作り利用者も盛り付けや食器拭き等できる事に携わってもらっています。職員も利用者とテーブルを囲んで一緒に同じ食事を摂り、月1回位は事業所でお好み焼きやたこ焼き等利用者の好みの物を作っています。ゼリーやケーキ等の手作りおやつ提供や出前で弁当を頼んだり、外食に出掛ける等食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、法人内の厨房にて調理しており栄養管理している。水分は自発的に要求される方が少ないので、意識的に飲水をしていただくようにしている。水分摂取表を作成したりして意識ができるよう工夫をしている		

認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎回実施している。必要に応じて食後だけでなく、食前にも口腔ケアを実施している。また、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケアのアドバイスを受たり、治療を受けていただいている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレまで移動して排泄することが難しくなっても、居室にポータブルトイレを設置してトイレで排泄できるようにしている。ご入居者の排泄チェックをしてパターンを把握し、失敗が減るように定期的な声掛けをしている	座位や移乗に苦痛や転倒リスクが無ければ日中はトイレでの排泄を基本とし、全員排泄記録を取りパターンを把握し利用者個々のタイミングに合わせてトイレへの案内を行っています。利用者に応じた排泄用品や支援方法は職員間で検討し、支援を継続して失敗が減り布の下着に戻るなど排泄状況が改善した利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足や水分不足は便秘の要因でもあるので、意識的に活動を取り入れたり、水分補給を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的なベースはあるが、ご本人にお声かけをして、気分が乗らないときは無理強いやせず、またご本人が入浴したいといわれた時には入浴できるようにしている	週3回の入浴を基本に利用者の体調や気分なども考慮しながら支援しています。希望があれば入浴の回数を増やすことも検討し、拒否が見られる場合は日時を変えたり職員を代える等工夫して無理なく入ってもらっています。一人ずつ湯を交換し、好みのシャンプーや化粧水等を持ち込んでいる方がいたり、ゆず湯等を行い、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、表情等を見て疲れを感じているときなどは、声をかけ休息をしていただいたり、日中に寝すぎて夜間に眠れなくなることがないように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成している。また、服薬前にご本人のものであるか、日付、飲む時間に間違いはないか声に出して確認を行い、間違いが無いように確認の徹底、周知をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いままで培ってこられた能力を活かし、裁縫や編み物に取り組まれている。定期的な外食の機会を設けたり、誕生日にはご本人のお好きなものを提供できるようにしたりしている		



認知症対応型共同生活介護あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	頻度的にも多くはなく、遠方への外出等はできていないが、状況に応じて外出ができるよう努めている	気候の良い時期には敷地内で散歩や外気浴をしたり、併設の施設に出掛けて一緒にレクリエーションを楽しむこともあります。また地蔵盆等の地域の行事に参加したり桜の花見やドライブ等に出掛け、またグループホーム運動会には家族と参加する等、出来るだけ外出の機会を持てるよう支援しています。家族と外食に出掛ける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しているが、ご本人の希望される嗜好品や必要な日用品などを購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親族の方から手紙が届くことがあり、返事の手紙を書かれる方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に季節感が出せるように創作壁画を作っている。玄関先に季節の花をボランティアさんが生けてくださっている。頂いた花をご入居者に生けていただき飾ることもある。ご入居者が趣味で撮られた写真をお借りし飾らせていただいている	リビングに生花や利用者と職員で作った貼り絵を飾ったり、廊下や玄関に利用者が撮った写真を掲示して季節を感じられるようにしたり温かい雰囲気を作っています。机や椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、独立した談話室もあり、過ごす場所を選びゆったりと寛いでもらっています。毎日換気や清掃を行い、加湿清浄機や濡れタオルを使用し加湿にも気を配り快適で過ごしやすい共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者それぞれが思い思いの場所で思い思いの過ごし方をされている。気の合う方同士で協力して手作業をされたり、共通の趣味活動をされたりすることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活されていた時に使っていた馴染みのものを持ってきていただき使っている。各居室に温湿度計を設置し、適切な環境であるかを確認している	入居時に馴染みの物を持って来てもらうように伝えテレビや机、椅子、家族の写真、仏壇等の持ち込まれた物を家族と職員で相談しながら使いやすいように配置しています。新聞を読んだり毎日書き物を楽しんでいる利用者もいます。加湿清浄機を使用し毎日掃除や換気を行い清潔保持を心掛け快適に過ごせるよう努めています。生活習慣に合わせて布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を使用されている方でも自走して、ご自分の行きたいところへご自分で行っていただくようお声かけをしている。動線上の移動の妨げとなるものがないか意識するようにしている		